

第29回群馬緩和医療研究会

日 時：平成 26 年 4 月 19 日 (土) 13:00~16:30
会 場：前橋テルサ 2階 ホール
テ ー マ：～切れ目のない緩和医療，つなげよう在宅の輪～
当番世話人：前島 和俊 (群馬県病院薬剤師会)
鈴木 實 (群馬県薬剤師会)
共 催：群馬緩和医療研究会・塩野義製薬株式会社
後 援：群馬県病院薬剤師会・一般社団法人群馬県薬剤師会

〈セッション 1〉

口 演

1. 地域で支える「私のリビング・ウィル」

田中 俊行,^{1,2} 小川 哲史,^{1,2} 荻野 隆史,^{1,2}
茂木 充,¹ 藤澤千栄美,¹ 羽鳥裕美子¹
高田美和子,¹ 木村 寛,^{1,2} 小川 祐介²
長沼 篤,² 清水 弘子,³ 佐藤 拓海³
篠原 純史³

- (1) 独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター 終末期医療プロジェクトチーム)
- (2) 同 NST)
- (3) 同 地域医療支援・連携センター)

【目 的】 当院で作成し，地域全体で使用し始めているリビング・ウィル「私の意思表示ノート」を紹介する。

【方 法】 A5版の大きさの手帳とした。年齢や状況によって思いは変化するので，その都度自分の意思を記載できるように工夫をした。また，家族の署名欄を設けた。運用前に，病院職員やがん患者の意見を参考にした。

【手帳内容と結果】 「もし，あなたが病気や事故により，現在の医学による治療では回復が見込めず，すでに死期が間近に迫っていると診断され，あなたが明確な意思表示ができない状態になった場合，どのような治療を望めますか？」の問いに対し，①できるだけの治療を望みます，②延命治療は望みません，③今はわかりません，の選択肢とした。また，経管栄養のほか，点滴，昇圧剤や強心剤の投与，輸血，人工透析，気道確保，人工呼吸器，除細動，心臓マッサージについて，さらに詳細な意思表示ができるようにした。また，判断を任せたい人や自由な意見が記載できる欄を設けた。巻末には，携帯用意思表示カードを追加した。当院外来で週に 10冊くらい，全病棟

で週に 10冊くらい消費されており，また，当院ホームページのリビング・ウィルに，週に 70件くらいのアクセス (9月は約 50件) があった (11月 28日現在)。【結語】 現在，群馬県 (県庁医務課)・高崎市・安中市・高崎医師会・安中医師会から賛同を得ている。医療者が患者の意思を尊重した医療を提供できるよう，健康な時からリビング・ウィルの記載を一般市民に啓蒙していく必要があると考える。今後，行政と共同して改訂版を作成し，地域全体で使用する予定である。

2. 痛みの緩和パスの作成と導入-オキシコンチン初回導入パスを作成して

村上 廣野,¹ 羽鳥裕美子,² 坂元 一郎¹
辰巳 晋平,³ 櫻井優一郎,² 田中 俊行²

- (1) 独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター 南 7階病棟)
- (2) 同 緩和ケアチーム)
- (3) 同 薬剤部)

【はじめに】 WHO 方式がん疼痛治療により，約 80%の患者で鎮痛効果が得られるといわれている。しかし，この方針に沿って治療できていない場合もあり，その要因に医療用麻薬に対する理解不足が挙げられる。当院の問題点として ①医療用麻薬に関する誤解や医療用麻薬への抵抗感がある ②タイトレーションの方法やレスキュー使用方法が標準化されていない ③副作用対策が行われていないなどが挙げられる。今回，当院の問題点を改善することにより，疼痛管理の啓蒙・普及を目指し，オキシコンチン導入パスの作成を行ったので報告する。

【方 法】 1. 痛みのパス作成 ①電子カルテパス ②患者用パス ③痛みの管理表 ④ WHO 方式がん疼痛治療法説明用紙 ⑤がん性疼痛問診票 ⑥医療用麻薬説明用紙 2. 痛みのパス導入にあたっての運用マニュアル作成 3. 平成 25 年 6 月院内パス大会：内容紹介・使用方法の周知